

奥山由之写真展「白い光」を開催

キヤノンマーケティングジャパン株式会社（代表取締役社長：坂田正弘）は、キヤノンギャラリー S（所在地：東京都港区）にて、奥山由之写真展「白い光」を2019年3月7日より開催します。



©奥山由之

■ 概要

- 開催日程：2019年3月7日（木）～4月15日（月）
- 開館時間：10時～17時30分
- 休館日：日曜日・祝日
- 開催会場：キヤノンギャラリー S（住所：東京都港区港南2-16-6 キヤノン S タワー1階）
- 交通案内：JR品川駅港南口より徒歩約8分、京浜急行品川駅より徒歩約10分
- 入場料：無料

■ 展示内容

本展は、写真家・映像作家の奥山由之氏による写真展です。

多くの写真集出版や展覧会での作品発表に加え、映像作家としても活躍している奥山氏が、独自の感性でとらえた作品を展示します。

かつてない新たな試みによる展示会場内は「写真を見る」という行為について再認識できる空間構成になっています。

作品は、すべてキヤノンの大判プリンター「imagePROGRAF」でプリントし展示します。

- 一般の方のお問い合わせ先 : キヤノンギャラリー S 03-6719-9021
- キヤノンギャラリー ホームページ : canon.jp/gallery
- ニュースリリース ホームページ : canon.jp/newsrelease

■ 作家メッセージ

白い光

どこまでも深い海の水面を撫でるようにして、漆黒の闇を進む。
聞こえるのは、波の呼吸と、エンジン音。
夜の茂みに目が慣れるころ、遠くにちらほらと見える、白い光。
そろそろだろうか。揺られ続けて小一時間。
目を凝らして探したあの景色と肌寒さを、よく思い出す。

白い光は、夜明けを待たずして、1隻、また1隻と集まる。
やがて聞こえる演歌の合図と共に、網を投げ入れ、仕事が始まる。
時折視界を晴らすカメラの閃光...

ふと、目を凝らして認識しようとする行為に、懐かしさを感じた。
僕らはいま、空間のみならず自己を取りまく全ての情報や環境を照らし出し、にも関わらず、受け身の姿勢で、時折現れる「分からない」という感情から目を背けている。やがて加速する周辺視野への散漫とした意識は、局所への注力を緩ませ、深度の浅いカラフルな大地を眼下に広げるのだろう。

未だ視覚や知覚は、“視ること”と“見ること”の境界を認識出来ているだろうか。
詩的に言えば、視えることで見えなくなったものがあるのではないか。
果たして、写真はいま、認識の対象にあるのか。

目を凝らし、光を照らす。

その光の先には、何がある。

■ 作家プロフィール

奥山由之（おくやま よしゆき）

1991年東京生まれ。2011年『Girl』で第34回写真新世紀優秀賞受賞。

2016年には『BACON ICE CREAM』で第47回講談社出版文化賞写真賞受賞。

著作は他に『As the Call, So the Echo』『君の住む街』『POCARI SWEAT』『Los Angeles / San Francisco』『THE NEW STORY』『march』などがある。

主な個展は、「Girl」Raum1F（12年）「BACON ICE CREAM」パルコミュージアム（16年）、
「THE NEW STORY」POST（16年）、「Your Choice Knows Your Right」REDOKURO（17年）、
「君の住む街」表参道ヒルズ スペースオー（17年）、「As the Call, So the Echo」Gallery 916（17年）など。